

第4学年 社会科学習指導案

2組 計25人 (男子12人 女子13人)

指導者 川原園 達司

1 小単元 のこしたいもの、つたえたいもの

2 目 標

- 地域の人々が受け継いできた祭りなどの年中行事に関心をもち、意欲をもって調べ、これらへの愛着をもって、その保存・継承について考えたり、自分たちもそれを担う地域の一人であるという意識をもとうとする。 【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 地域の人々が受け継いできた祭りなどの年中行事の歴史、内容、そこに込められた思いや願い、保存や継承に携わる人々の努力について調べて分かったことや考えたことを分かりやすく説明することができる。 【社会的な思考・判断・表現】
- 地域の人々が受け継いできた祭りなどの年中行事について見学、調査したり、実際に参加したり、保存・継承に携わる人々の話を聞いたりして自分に必要な情報を集めて調べたことを年表や地図、絵カードなどにまとめることができる。 【観察・資料活用の技能】
- 地域の人々が受け継いできた祭りなどの年中行事には、それぞれの歴史的背景、いわれがあり、地域の発展や人々の結束を願って行われ、保存・継承されているものがあることを理解することができる。 【社会的事象についての知識・理解】

3 小単元について

(1) 小単元の位置とねらい・価値

子どもたちはこれまでに、古い道具と、それを使っていた昔の生活について調べ、当時の人々がくらしをよりよくしたい、豊かに生活したいという思いや願いを基に生活改善のための工夫や努力を続けてきたことを学習してきた。この学習を通して、子どもたちは当時の生活や道具の使い道を予想したり、現代の生活と比較したりしながら、地域の人々の生活の変化や思い、願い、生活の向上に努めてきたことについて理解してきた。また、自分たちが住む地域の歴史について関心をもち、自分たちもその歴史を継承し、地域をよりよくするためにできることはないかという意識をもち、するようになっていく。

そこで、本小単元「のこしたいもの、つたえたいもの」では、地域に昔から残るものとして年中行事を取り上げる。具体的には、毎年11月に天文館地区を中心に行われ、南九州最大と言われる規模を誇る「おはら祭」を取り上げることとした。「おはら祭」は、本校の校区で行われ、子どもたちの中には、あいご会での踊り連への参加、イベントへの出演や観覧など、実際に参加したり、見たりした経験をもつ子どもも多い。子どもたちにとって身近な社会的事象を調べる対象として設定することで子どもたちは、「知っているようで知らない」「知っているけれど、もっと詳しく知りたい」という追究意欲をもつことができると考える。また、実際の追究活動では、これまでの経験を想起し、祭りを見る人、参加する人、支える人、継承する人といった様々な立場から祭りの歴史、いわれ、継承・保存の働きについて多面的に追究させるようにする。

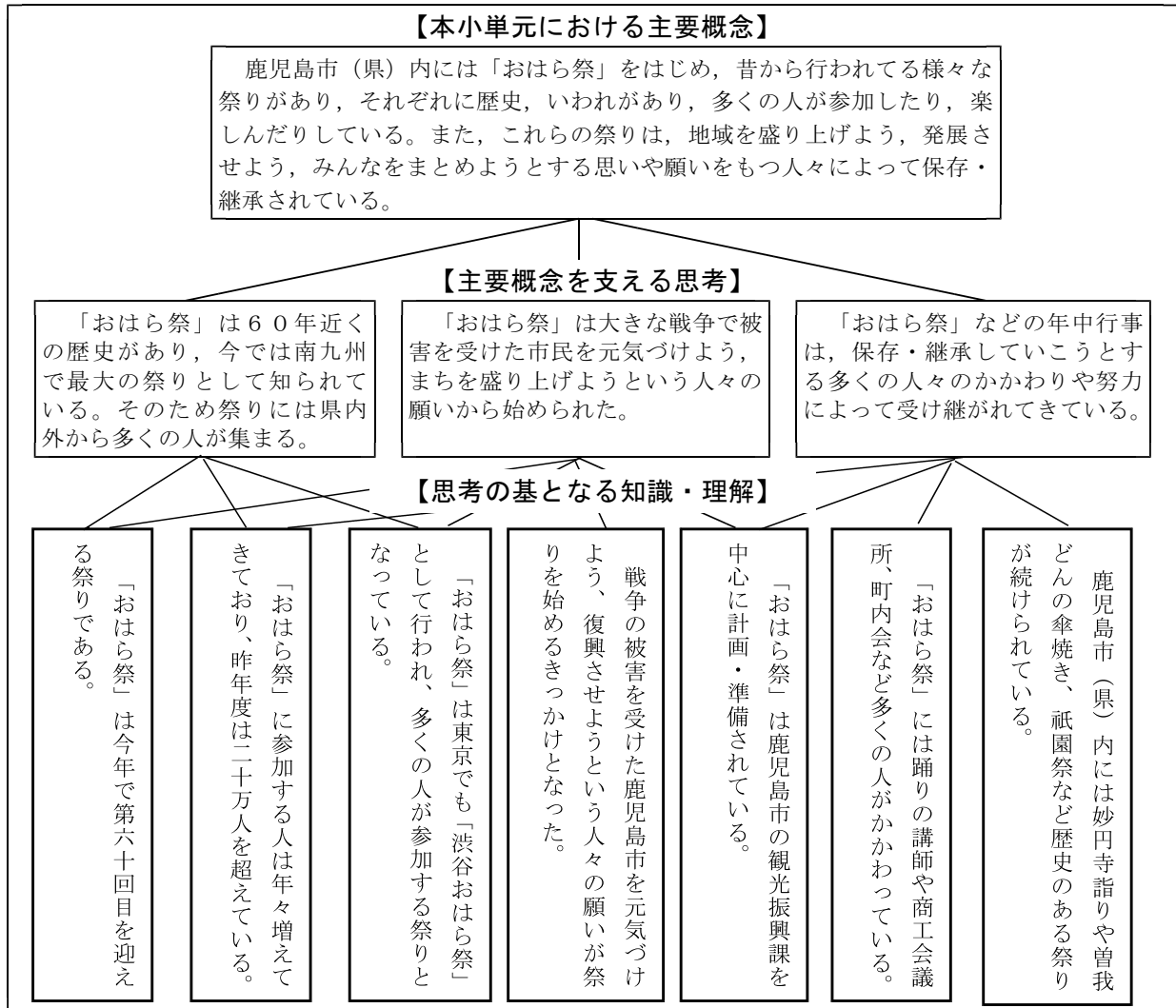
(2) 子どもの実態 (調査日 平成23年9月16日 調査人数 25人)

社会科の学習及び本小単元に関する子どもの実態は以下のとおりである。

【調査1】鹿児島市の祭りの中で、知っているものを書きましょう。(自由記述) [複数回答]
○六月灯・夏祭り (23人) ○十五夜 (19人) ○おはら祭 (14人)
○山下祭り(生活科祭り) (20人)
【調査2】祭りが行われている理由について、自分の考えを書きましょう。(自由記述) [複数回答]
○みんなが楽しめるから (20人) ○人が集まるとにぎやかだから (14人)
○昔から続いているから (10人) ○大切なものだから (4人)
【調査3】祭りに参加したときの気持ちを書きましょう。(自由記述) [複数回答]
○楽しい (25人) ○盛り上がる (15人) ○いろいろな人に会える (8人)
○準備が大変そう (2人)

本学級では、祭りの中で六月灯、山下祭り（生活科祭り）を想起している子どもが多いことが分かる。本校区では、鹿児島市で最大の規模を誇る照国神社の六月灯が行われ、学校では、灯籠作りをしたり、家族で見に行ったりするなど自分が参加した経験をもつとともに、出店など子どもたちにとって楽しみなものが多いため、身近な年中行事として印象が深いためと考える。また、祭りを行う理由としては参加した人が「楽しめる」ということや大勢の人を「集客する」ためと考える子どもが多い。その一方で「昔から続いている」、「大切なものだから」というように祭りの歴史や継承・保存に視点を置いている子どももいることも分かる。さらに、祭りに参加したときの気持ちとしては「楽しい」「盛り上がる」など好意的な考えが多い。

(3) 小単元の構造分析



4 指導にあたって(研究と関連)

- 「つかむ」過程では、おはら祭に関する写真を比較することで祭りが行われるようになったきっかけや、そこにかかわる人々の思いや願いを予想しながら学習問題づくりを行う。
- 「調べる・確かめる」過程では、おはら祭のパンフレットや新聞記事、インターネットなどを使って調べさせ、歴史やいわれ、かかわる人々の働きを多面的に追究することができるようにする。また、おはら祭に関わる人々へのインタビューVTRを活用して、子どもたちが自分の追究活動の結果を検証することができるようにする。
- 「まとめる」過程では、おはら祭について調べたことを年表や絵カードを使って表現し、それぞれの社会的事象を関連付けて説明することができるようにする。
- 「広げる・深める」過程では、おはら祭と県内のその他の祭りを比較して調べることができるようにする。

5 指導計画（全9時間）

○教師の指導

※評価項目

◎ICT活用

過程	時間	主な学習活動	教師の指導と評価項目	資料等
つ か む	2	<p>1 昔のおはら祭の写真を見て考えたことを話し合う。</p> <p>2 最近のおはら祭の写真を見て考えたことを話し合う。</p> <p>3 昔と今のおはら祭の写真を比較しながら話し合ったことを基に学習問題をつくる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">おはら祭はいつから、どのようにして始められ、どうして60年近く続けられているのだろうか。</p> <p>4 学習問題に対する予想を立て、追究の計画を立てる。</p>	<p>○ 太平洋戦争によって焦土と化した鹿児島市の写真と現在の天文館周辺の写真やおはら祭の写真を比較し、町が復興したことに気付くことができるようにする。</p> <p>※ 自分たちが住む地域の変化について関心をもち、その過程に問いをもっているか。 【関心・意欲・態度：発言】</p> <p>○ 学習問題に対する自分なりの予想を、これまでの学習や知識、経験を基に考えることができるようにする。</p>	<p>・鹿児島市の写真</p> <p>・おはら祭に関する新聞記事</p> <p>・おはら祭の写真</p> <p>◎プレゼンテーションソフトにおけるアニメーション機能を活用した写真の比較</p>
調 べ る ・ 確 か め る	4	<p>5 追究の計画に沿って、調べ学習を行う。</p> <p>(1) おはら祭はどのような祭りなのか。</p> <p>(2) おはら祭はいつから始められたのか。</p> <p>(3) おはら祭にはどれぐらいの人が参加しているのか。</p> <p>(4) おはら祭にはどのような人がかかわっているのか。</p> <p>(5) おはら祭にかかわる人々はどのような思いや願いをもっているのか。</p> <p>(6) なぜ、おはら祭りは今でも続けられているのか。 (本時6／9時)</p>	<p>○ おはら祭について知っていることを自由に発表させたり、グループで話し合ったりさせることで、何を調べればよいのか具体的な視点をもつことができるようにする。</p> <p>※ 年表やパンフレットなどの各種資料を活用しておはら祭について調べているか。 【観察・資料活用の技能：ノート、ワークシート】</p> <p>○ おはら祭に参加した経験がある子どもの感想や気付きを取り上げること、多くのかかわり、運営されていることに気付くことができるようにする。</p> <p>※ おはら祭の歴史、そこにかかわる人々の思いや願いについて調べたことを基に、考えたことを説明することができたか。 【思考・判断・表現：発言、ノート、ワークシート】</p>	<p>・おはら祭に関する新聞記事</p> <p>・おはら祭の写真</p> <p>・おはら祭参加者の推移を表したグラフ</p> <p>◎プレゼンテーションソフトにおけるアニメーション機能を活用したグラフの提示</p> <p>・インタビューのVTR</p> <p>◎電子模造紙を活用した意見の分類・整理</p>
ま と め る	2	<p>6 これまでの学習を振り返り、学習のまとめをする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">おはら祭は太平洋戦争で被害を受けた鹿児島市民を元気づけよう、市民のつながりを深めようという思いから始まった祭り、今もその思いが引き継がれ、様々な人々の努力によって続けられている。</p>	<p>○ おはら祭について調べたことを絵カードにまとめることで調べたことを関連付けながら表現できるようにする。</p> <p>※ おはら祭は戦後の復興を願う人々によって始められ、現在でも多くの人々によって継承されていることを理解しているか。 【知識・理解：ワークシート】</p>	<p>◎書画カメラを活用した発表</p> <p>・子どもたちが作成した作品（絵カード）</p>
広 げ る ・ 深 め る	1	<p>7 県内で行われているおはら祭以外の年中行事について調べる。</p>	<p>○ 県内で行われている祭りの具例を挙げながら、おはら祭について学習したことと関連付けたり、適用したりすることができるかを考えることができるようにする。</p>	<p>・妙円寺詣り、祇園祭、曾我どんの傘焼き等、県内の祭りの写真</p>

5 本時(6/9時)

(1) 目標
鹿兒島市で行われている「おはら祭」には、戦後の町を復興させよう、市民の結束を深めようという地域の思いや願いが込められており、祭りにかかわる多くの人々の努力によって脈々と継承されていくことについて調べて分かったことを説明することができる。(社会的な思考・判断・表現)

(2) 本時において高めた子どもたちの思考

おはら祭は、戦争で被害を受けた鹿兒島市民を元氣付けよう、町を盛り上げようという人々の思いや願いによって始められ、現在までその思いや願いを受け継ぐ人々の取組によって、60年近くの歴史を刻んでいる。

(3) 展開
は教師の言葉掛け() は予想される子どもたちの反応() は重点評価項目と個に応じた指導 ☆はICT活用の留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子どもたちの反応	教師の指導
問題の把握(7)	<p>1 おはら祭についてこれまでに調べて分かったことや考えたことを確認し合う。 おはら祭について調べて、どんなことが分かりましたか。</p> <p>今年で60回目を迎える祭りです。 毎年、多くの人が参加しています。 たくさんの方々がかわつています。</p> <p>2 学習問題をつかむ。 なぜ、おはら祭は60年近く続いているのだろうか。</p> <p>3 自分なりの予想を立てる。 みんなが楽しみにしているからなのか。 市役所の人から工夫しているのだから。 宣伝しているからかな。</p>	<p>○ 前時までに調べたことを年表や写真などの具体的な資料を活用しながら振り返り、おはら祭の歴史やいわれを確認する。</p> <p>☆ プレゼンテーションソフトにおけるアニメーション機能を活用して今と昔のおはら祭の写真を比較し、町の様子、参加者の服装等を比較しながら祭の変遷を考察すること(比較する)</p> <p>○ これまでに調べて分かったことや自分の経験、知識を基にしながら祭りが60年近く続けられている理由を考察することができるようになる。(推論する)</p>
問題の追究(30)	<p>4 個人で立てた予想をグループで話し合い、考えをまとめる。 おはら祭が始まった理由を考えると、続いている理由も分かりそうだね。 おはら祭には多くの方が関わっていることと関係があるんじゃないかな。</p> <p>5 グループでまとめた考えを全体で、再度、祭の継承、地域の活性化、観光客の誘致など具体的な視点を基に分類・整理する。 グループから出された考えを比べながら整理してみると、どんなことが分かりましたか。 ○班の考えと△班の考えは似ているね。まとめられないかな。 「長い間、続けられているんじゃないかな。」 「やっばり、まちの人が楽しみにしているものだから。」</p> <p>6 祭りにかかわる人へのインタビュービューTRを視聴し、本時のまとめをする。 続けたいという気持ちが強んだね。 おはら祭をとっても大切に思っているんだね。 おはら祭は、祭りを始めた昔の人々の思いや願いを大切にしようという人々によって受け継がれているから60年近く続いている。</p>	<p>☆ 電子模造紙を活用して、グループでの話し合いの過程を可視化し、お互いの考えを付加、修正することができるようになる。(分類・整理する)</p> <p>◆ グループで話し合ったことを分類・整理しながら、おはら祭が長く続いている理由を説明することができたか。 【思考・判断・表現：発言・ワークシート】 話し合いに教師も適時参加しながら祭りに関する多くの人の考えを整理することができたか。 → 話し合いの過程を多面的に考察することができるようになる。</p> <p>☆ 電子黒板上で、タペンを駆使して子どもたちが書いたワークシートを、実際に動かして全体で確認できるようにする。祭りにかける思いや「祭りを続けるための努力」について「インタビュー」の結果を検証する。</p> <p>○ おはら祭について調べたことを、どのよう表現するか、既習事項を基に、具体的に想起することができるようになる。</p>
結果の吟味(8)	<p>7 次時への見通しをもつ。</p>	